

主 題：神による救いと人による救い4

聖書箇所：ローマ人への手紙 10章9-10節

すでにパウロは私たちに、10章4節で「信じる人はみな義と認められるのです」と神の恵みを語りました。神の備えてくださった救いを信仰をもって受け入れる人は、すべてこの救いに与る、どんな罪人でも主の前に救いを求めて出て来るなら主は救いを与えてくださるといふ、すばらしい恵みです。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」とパウロがエペソ人への手紙2章8節で告げたように、どんな罪人でも主は赦して下さるのです。この救いをいただくということは、あなたや私にとって最も大切なことです。なぜなら、それはあなたの永遠がかかっているからです。天国なのか、地獄なのか、これはいい加減にでない問題です。あなたの永遠のことです。ですから、私たちはこの救いということを考える時に、自分の永遠がかかっている訳ですから、そのメッセージが真理に基づいているのかどうか、そのことをしっかりと吟味する必要があります。救いのメッセージを正確に知らなければならないのです。もし、間違っているなら、取り返しのつかないことになってしまいます。イスラエルの人々は熱心でした。しかし、パウロが言ったように、彼らは真理に基づいていなかったのです。自分を満足させても、悲しいことに、神を満足させることはなかったのです。確かに、信仰心が篤かったし、ユダヤ教という宗教に熱心でした。しかし、悲しいことに、彼らは一番望んでいた天国に行くことはなかったのです。

私たちもそのような過ちに陥ってはなりません。でも、そのためにはしっかりと神が私たちにくださった聖書のみことばを理解することが必要です。救われるためにはどうすれば良いのか、何をすべきなのか、そのことをパウロはこのみことばを通して私たちに教えてくれます。今朝、私たちはこの救いを得るために信じなければならない二つの真理をgoいっしょに見て行きます。あなたが救いに与るために、あなた自身が受け入れなければならない、信じなければならない二つの真理です。9節と10節をご覧ください。「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。:10人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

☆救いを得るために信じなければならない二つの真理 9-10節

この9節と10節のみことばを観察してみましょう。非常に興味深いことが記されています。まず、二つのことに気付くと思います。9節と10節はどちらも救いのことが言われており、何を信じたら救われているのかが記されているのですが、その内容は必ずしも同じではないということです。そのことにお気付きになると思います。9節では「救われるための手段」が記されています。「もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」とあります。救われるためには「告白すること」であり「信じること」とであると言います。10節を見ると、「告白すること」と「信じること」が別々に記されています。「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」と、ここには二つのことを記しているように見えます。なぜでしょう？そのことを今から見て行きます。もう一つの観察は、この二つのことば「告白」と「信じること」の並んでいる順序が違います。9節では「告白」があって「信じる」とありますが、10節を見ると「信じる」があって「告白」があります。そんな順序などどうでもいいのではないかと思われるかもしれませんが、これには理由があるのです。それも今から見て行きます。

さて、9節の最初には「なぜなら」という接続詞が記されています。新改訳聖書の欄外には別訳として「すなわち」と記されています。これは、前の8節につながっているのです。8節を説明しているのが9節のみことばです。8節は旧約聖書の申命記のみことばの引用であると前回学びました。申命記の30章14節のみことばが引用されていました。そこには「まことに、みことばは、あなたのごく身近にあり、あなたの口にあり、あなたの心にあつて、あなたはこれを行なうことができる。」とあります。ここにはみことばは「口」にあつて次に「心」にあると言っています。それを引用したのがローマ10:8です。そして、それと関連しているのがこの9節です。ですから、順序を見ると、まず「口」が出て来て、その後「心」が出て来ます。申命記と同じ順序です。

10節は、先ほどもその違いに触れましたが、9節でパウロが語ったことをより深く説明しています。ここでは、まず「心」があって次に「口」が出て来ます。ここで初めて正しい順序が記されているのです。なぜなら、私たちがみことばを学んでいるとき、神がいつも私たちに教えてくださることは、私た

ちの「心」のことです。心が変わるならそれは行動となって現われるからです。私たちはなぜ罪を犯すのでしょうか？心は罪に汚れているからです。行動を一生懸命直そう、改めようとしても、心は生まれ変わってなければ長続きはしません。ですから、みことばはいつも私たちの心のことを話します。心が変わるなら行動にその影響を及ぼすと言います。信仰に関しても同じです。まず、私たちの心です。そして、それが行動になるのです。ですから、10節で言われているその順序は正しいのです。

面白いことは、もう一つ見ていただきたいのですが、9節に「もしあなたの口で」とありますが、その後も「あなたの心で」とあります。このようにするなら「あなたは救われる」と言うのです。10節では「あなた」ではなく「人は」となっています。ということは、パウロは9節で「個人に対して」語っているのですが、10節では一般的な話をするのです。つまり、9節では「個人的な救いの招き」を語り、その後、10節では「救いに関する声名、救いがどういうものか」を明らかにするのです。

そこで、もう少しこの内容を見て行きます。

A. 信じるべき真理の内容 9節

私たちが信じるべき真理の内容について教えています。何を信じるべきか、パウロはここで二つのことを教えています。

1. イエスは「主」であること
2. 神がイエスを死よりよみがえらせたこと

この二つの真理を信じることによって救われると記されています。9節「あなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」、この二つの真理を信じることだと言います。これらの真理は6-7節でパウロが教えたイスラエルの人々の不信仰と関連していると思いませんか？イスラエルの人々は大切な真理を信じていませんでした。それは「イエス・キリストの受肉」、イエス・キリストが人となってこの世に来られたことを信じていませんでした。もう一つは「イエス・キリストの復活」です。イエス・キリストが死からよみがえってきたことを信じていませんでした。その不信仰、しかも、それが余りにも救いと関連したことですから、パウロはそのことを強調したのです。そして、パウロは9節と10節でそのようなことがあってはならない、あのような不信仰があってはならないと言い、そして、こういうことを信じなければいけないと大切な二つのことを教えるのです。イエスは主であることと神はイエスを死からよみがえらせたこと、すなわち、「イエスの受肉とイエスの復活」は私たちがしっかり考えて、みことばに照らして受け入れなければいけない真理です。ですから、私たちはこれらのことをその意義を正確に知ることが必要です。

(1) イエスの受肉

イエスの受肉を考える時に、私たちが覚えなければいけないこと、考えなければいけないことは、

- (a) いったい、だれが人となったのか？ 人としてお生まれになった方はいったいだれなのか？
- (b) 何のために人となったのか？

ただ、「イエスの受肉」という教理を勉強するのではなくて、イエスの受肉を考えるときに、いったいこの人はだれなのか？私とどのような関係があるのか？そのことを深く見なければいけません。

(2) イエスの復活

- (a) 父なる神はなぜイエス・キリストをよみがえらせたのか？
- (b) イエスのよみがえりがどうして私にとって重要なのか？

そのことをしっかりと知ることが必要です。

さて、今話した救われるために必要な二つの真理、「イエスは主であること」と「神がイエスを死からよみがえらせたこと」、このことについて見て行きましょう。

1. イエスは「主」であること

「イエスは主であること」を信じなさいと言います。恐らく皆さんは「主」とはどういう意味かをご存じでしょう。

1) 「主」とは？

(a) 主権者、統治者としての権威と権力をもっておられるお方

この方はすべての主権者であり、すべてを治めておられる統治者です。この方に勝る存在はいないのです。この方に命令する人はいない、この人がすべての上にあるということです。ベーカー神学辞典を見ると、このことばに関してこのような説明がなされています。「旧約聖書においてはこの主とは神に適用されていた。創造主、支配者である。また、いのちと死を与える人という意味で、主ということばは至高者の主権を現わす。」と。ですから、先ほどから見て来ているように、「主」ということばを使うときに当然、私たちはこのことばがもっている意味、この方は神であり最もすぐれたお方であること

を理解しているのです。パウロは「あなたはそのことを告白することが必要である」と言います。正確に言うなら「口で告白することが必要だ」ということです。

(b) 神の別称

同時に、「主」とは神の別称です。というのは、私たちが何度も見ているように、ヘブライ語で記されている旧約聖書のギリシャ語訳である聖書、70人訳を見ると、この「主」ということばは神の個人的な名前である「ヤーウェー」の訳語です。ですから、旧約聖書にヘブライ語で記されている「ヤーウェー」ということばを、「主」というギリシャ語である「クリオス」ということばに訳したのです。ですから当然、人々が「主」ということばを見たときに、旧約聖書を知っている人なら、それは神のことであるとすぐに思います。70人訳の中にこの「主」ということばは六千回以上使われています。パウロはイエスが「主であること、神であること」の確信をもっていました。

2) イエスが主、神であることの証明 = パウロの証言

その確信とは、彼自身がイエスをどのように捉えていたのか、そのことによって知ることができるのですが、パウロは「イエスはこのようなお方である。だから、主である。」という説明をしています。

(a) すべてにまさる名をいただいたお方

彼はピリピ人の手紙の中で、イエスは「すべての名にまさる名をいただいたお方だ」と言っています。ピリピ2:9をご覧ください。「それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。」、その後を見ると、10-11節「それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」、このイエスの前にすべてのものがひざまずいて、この方が「主である」ということを認めるのです。信仰者は喜んでそのことをします。私たち信仰者はこの方の前にひざまずいてイエスを主としてあがめます。でも、すべてのものがひざまずくというのは、クリスチャン以外の者も含まれているのです。サタンや悪霊、神に逆らい続けた人間、彼らは喜んでしません。強制的にいやいやながらです。でも、彼らも気付くのです。イエスが神であることを彼らも分かるのです。そのように預言されています。そして、パウロがここで言ったことは「イエス・キリストはすべての名にまさる名を与えられた方」である、つまり、神だということです。パウロはこのような表現を通して告白するのです。

(b) 祈りをささげる対象のお方

また、パウロは主イエス・キリストに祈りをささげています。Iコリント1:2「コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、…」、イエスの御名を至る所で呼び求めている、これは祈りのことです。私たちはどこでも「イエス・キリストの御名によって」祈るからです。つまり、イエスのみこころに沿って私たちは祈る訳ですが、そのようにして私たちはイエスを祈りの対象としているのです。パウロはそのように記しているのです。この箇所以外にも数多くの箇所で、パウロはイエスを祈りをささげる対象として記しています。ユダヤ人たちは唯一の神以外に祈りをささげることは罪であると考えていました。パウロはユダヤ人です。そのパウロがイエスに祈りをささげたということは、彼がイエスを神と見ていたということです。

(c) 恵みと平和の源であるお方

また、もう一つ上げるなら、父なる神は私たちに恵みと平安を与えてくださるお方です。そして、「私たちの父なる神」と「主イエス・キリスト」を同等に扱っています。ローマ1:7「ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように。」、Iコリント1:3「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」、IIコリント1:2「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」、このように神が与えてくださる祝福、そこにイエス・キリストを並列しているのです。神が与える祝福をイエス・キリストも与えることができるのです。なぜなら、イエス・キリストは神だからです。

3) 口で告白する

さて、神であり、すべての主権者であり、また、すべての統治者であるイエス・キリスト、その方をあなたは自らの口をもって告白しなさいと言うのです。この「口をもって告白する」ということ、これは「同じことを言う、だれかと同意する、一致する」という意味です。つまり、今、私たちがみことばを見てきたように、神は主イエス・キリストが真の神だと教えるのです。聖書の中を見て行くとき、イエス・キリストは真の神であり、主権者であり統治者である、そのことが教えられます。そのように神は私たちにこの神が与えてくださった聖書を通して教えてくださるのです。そして、私たちが口をもつ

てイエスを告白するということは、その神が教えてくださっていることに私は心から一致するということです。その通りだと同意するということです。

「主」ということばは何も珍しいことばではありませんでした。その当時もローマ皇帝に対しても使われていました。また多くの偶像も、偽りの神々もそのように「主」と呼ばれていました。それに関してパウロは、Ⅰコリント 8 : 5-6 でこのように教えています。「なるほど、多くの神や、多くの主があるので、神々と呼ばれるものならば、天にも地にもありますが、⁵ 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。」、彼は知っていたのです。コリントの町には主と呼ばれるもの、神と呼ばれるものが溢れていました。アテネの町もそうでした。偶像でいっぱいだったと記されています。この日本もそうです。神と呼ばれるものが溢れています。

そのような中で、そのような社会にあって、パウロが「あなたの口でイエスを主と告白し、」ということばは、多くの「主」がいる中でイエスもその一人です、神と呼ばれるものがたくさんいる中でイエスもその一人ですということではありません。パウロが教えていることは「イエス・キリストが唯一の主である」、「イエス・キリストは唯一の神だ」ということです。ですから、このローマ 10 : 9 で「もしあなたの口でイエスを主と告白し、」というのには、イエスだけが神であり、イエスだけが主権者であると、そのことを心から告白していることだということです。

神学者のクランフィールドは「イエスを主と告白する意味は、イエスは唯一真の神の名前を、ご性質を聖さを権威を力を威厳を永遠を共有しておられることを認めることだ。」と言っています。ですから、私たちは救われるために、自分の口でイエスを主と告白するのです。聖書が私たちに教えてくれるように、確かに、イエス・キリストはすべてをお造りになった真唯一の神だと心から同意するのです。「アーメン！そのとおりです。イエスはまことにまことに唯一の神である。」と、そのことを認めることがまず大切だとパウロは言うのです。「イエスを主と告白する」ことは、主によって救われたことの証拠です。なぜなら、これは主なる神の働きだからです。神のみわざです。Ⅰコリント 12 : 3 に「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ。」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です。」と言うことはできません。」とあるように、サタンの束縛から解放され、真理を理解できるようになるのは神の働きです。このローマ 10 : 9 とⅡコリント 4 : 4-6 を比較します。「そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。⁵ 私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。⁶ 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」、サタンは私たちの心を盲目にしますが、神は私たちの心に光を与えます。

2. 神がイエスを死からよみがえらせたこと

1) 歴史的事実

皆さんご存じのように、Ⅰコリント 15 章には復活のことがパウロによって記されています。15 : 5-6 「また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。⁶ その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。」、パウロがこのコリント人への手紙を送ったときにはまだ、イエスの復活、肉体をもったその復活を実際に目撃した人々が生きていました。ペテロも十二弟子たちもその復活を目の当たりにしました。そのみからだに触れた者もいます。いっしょに食事をした者もいます。その後、「五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っています…」というわけです。ですから、この通り、イエス・キリストの復活は明らかな歴史上の事実でした。

2) よみがえりの意義

このイエス・キリストのよみがえり、これは私たちにとってどんな意義をもっているのでしょうか？ 同じⅠコリント 15 : 17 にはこのような説明が為されています。「そして、もしキリストがよみがえらなかつたのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお、自分の罪の中にいるのです。」と、パウロは「もしイエス・キリストが十字架で死んだ後三日後によみがえらず、今も墓の中にいるとするなら、あなたは自分の罪が赦されたと思っていますが赦されていません。あなたは救われたと言っていますが本当のところは救われていません。」と言います。だから、復活は非常に重要なのです。私たちにとって非常に意義深いことなのです。先ほども見たように、イエス・キリストの復活を目の当たりにした人たちがいました。イエスが肉体をもってよみがえって来たことを目撃した人たちがいました。

キリストの復活、この歴史上の事実は何を明らかにしたのでしょうか？

(1) 復活が明らかにしたこと

・イエスの神性

イエスが神であるということです。これは私たちがローマ人への手紙の中で、特に、1章で学んだことです。ですから、詳しい説明はしませんが思い出してください。1：4「**聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。**」、つまり、イエスが敢然と死からよみがえって来られた、ご自分が言われていたように、三日後にその死からよみがえって来たという事実は、イエスご自身が神であることを明らかにしたのです。そして、イエス・キリストが死からよみがえって来たことによって、今まで明らかにされていなかったことが明らかにされたのです。イエスが地上にいたときはイエスを見た人たちは「ああ、人となられた神だ」とは気付きませんでした。イエスは神です。しかし、人々はそのことに気付いていなかったのです。しかし、イエス・キリストが死からよみがえって来ることによって、人々はそのことに気付いたのです。ですから、キリストの復活はご自分が神であることを明らかにしたのです。復活はイエスが神であることを私たちに示してくれたのです。「**大能によって公に神の御子として示された方**」とは、よみがえりの力によって示されたということです。

(2) 復活の意義

復活の意義に関しても、私たちはすでに見て来ました。ローマ4：25にこのように教えていました。「**主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。**」パウロはここで「**イエス・キリストの死の理由**」と「**復活の目的**」を私たちに教えてくれています。「**…ために**」ということばが重要です。

(a) イエスの死の理由：

「**私たちの罪のために死に渡され**」とあります。「**渡され**」とは処刑のことです。この「**ために**」は「～のゆえに」という意味で、理由を教えます。「ある理由のために、ある人のために」と、イエスの死の理由が記されているのです。イエスが十字架で死なれたのはあなたのためだと言います。あなたが受けなければならない罪のさばきをイエスが代わりに受けたのです。そのためにイエスは十字架で死んだということです。イザヤ53：4-5に「**まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。：5**しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」とある通りです。

(b) イエスの復活の目的：

では、イエス・キリストが死からよみがえって来たその目的とは何でしょう？「**私たちが義と認められるため**」です。言い方を変えると、あなたがたが救われるためです。この「**ために**」は「**達成するために、目的で、**」という意味です。イエスのよみがえりはいったい私たちに何を明らかにしてくれたのか？それは「**イエスが神だ**」ということでした。同時に、イエス・キリストのよみがえりは、あなたの罪のために来てくださったイエス・キリストという神のいけにえが、あなたに救いをもたらすために完全であることを明らかにしたのです。言い方を変えると、イエス・キリストのいけにえの完全性、また、有効性を証明した神のみわざなのです。イエスを信じることによってあなたの罪は完全に赦されるということを明らかにするために、イエスはよみがえって来たのです。だから、

*** イエス・キリストの十字架の死は、信じるすべての罪人の罪を赦すために十分であることの証明**

*** イエス・キリストのよみがえりは、このいけにえが信じるすべての罪人を完全に永遠に赦す力があることの証明** です。

ヘブル9：26を見てください。「**もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。**」、だれかの身代わりになって、あなたの罪の身代わりになっていのちを落とした人がいるとしましょう。私たちはその人がどんなに自分のことを愛してくれたのか、恐らく、そのことに何度も心を打たれるでしょう。でも、その人が死んでしまっただけだったらそれで終わりです。イエス・キリストは「**わたしは世をさばくために来たのではなく世を救うために来た。**」と言われました。言い方を変えると、あなたを救うために来たということです。そして、イエス・キリストは十字架にかかったときに、「**父よ、彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。**」（ルカ23：34）と、なぜ、わたしが十字架にかかっているのかこの人たちは知らないのですと言われました。

イエスが十字架にかかったその理由は「**あなたのため**」でした。イエスはあなたの罪を赦すために、あなたを罪から救うために身代わりとなってあなたの罰を受けてくださったのです。でも、死んで終わ

りであるなら、私のことを愛して私の身代わりに刑を受けてくれた人と余り変わりません。しかし、驚くべきことは、イエスは死ぬ前から「わたしは十字架で死んだ後、三日目によみがえる。」と言われた通り、三日後によみがえって来られたのです。そして、そのよみがえりが明らかにしたことは、イエスが言われたことがすべて真理であること、すなわち、イエス・キリストは神であるということです。イエス・キリストはあなたのすべての罪を赦すために十分なお方です。この方はあなたのすべての罪を完全に赦すことができる「救い主」です。

ですから、今日のみことばを見ると、パウロが私たちに救われるために必要なことは何かということに関して、「イエスが主である、イエスは真の神である。」と、そのことを私たちが心から受け入れ、そして同時に、イエスが私の身代わりとなって十字架で死によみがえってくださった、私を完全に救うことができる救い主であることを心から受け入れる、そのことを教えたかったのです。それによって、あなたは救いをいただくことができますのです。イエスは真の神であり救い主であることにあなたは心から同意するのです。そのことをパウロは9節で教えるのです。

B. 救いをもたらす信仰 10節

10節には「救いをもたらす信仰」が記されています。「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

1) 心に信じること

これは、ただ、知識を蓄えるというわけではありません。「心に信じて」と信じることです。この「心」ということばに関して、頭に入れておいていただきたいことは、感情だけでなくそこには知性も意志も含んでいるということです。特に、「意志」が大切です。私たちの行動を生み出して行く所だからです。このことは後で見ます。10節を見ると「義」と「救い」という名詞がありますが、パウロはこの名詞の前にどちらにも結果を意味する前置詞を付けているのです。つまり、「信じる結果が義であり、告白の結果が救いである」とパウロはそのように記しているのです。

私たちは信じて義が与えられます。信じる結果として、私たちは義を自分のものとすることができますのです。私たちはこの「義」ということばを何度も学んで来たので、皆さんは十分にその意味が分かるはずだと期待しますが、思い出していただきたいことは、この「義」ということばは法廷用語であって、裁判官がそこである判決を下す訳です。「あなたは義である。」と判決を下すなら、「あなたは正しい、あなたは聖い」ということを宣告してくれるのです。

2) 口で告白すること

10節には「口で告白して救われるのです。」とあって、私たちはここで当然「義」とされることだけで十分ではないのかと考えます。義とされるということは神の前に正しいとされることなら、なぜ、口で告白することが必要なのでしょうか？ここを見ると、心に信じて神の前に義と認められた、それだけではどうも救われていないかのように思います。例えば、だれかがイエスを心から信じたとします。今見て来たように、イエスは主であり、イエスは神であり、そして、救い主である、私の救い主であると、そのことを心から受け入れたとします。神が義と認めてくださった、でも、口で告白する前にその人が召されたとしましょう。そうすると、神は「惜しかったね。もう少しだったのに…、口で告白したらそれで終わったのに…」ということを言われるのでしょうか？それは違います！みことばが私たちに教えることは、私たちが神の前に義とされるということは、私たちが救いをいただくということです。

神の前に義なる者は救いをいただいた者なのです。では、なぜ、パウロはここで心に信じるだけで十分なのに「口で告白して救われる」と言ったのでしょうか？それは実は、先ほど見た「心の定義」を思い出してください。感情だけでなく、そこには知性と意志も含まれています。つまり、ここで言われている告白というのは、「本当に救われたことの証拠」なのです。ある人々はいろいろな知識をもっているから、それを口で告白することはそんなに難しいことはありません。でも、そのようなことを言っているではありません。たとえ、その人がここに書かれているように「イエスさまは私の主です。イエスさまは私の救い主です。」と口で告白をしたとしても、それが本物かどうかということはその生き方が明らかにします。なぜなら、「イエスは私の主」と告白するのは、実は、神のみわざだからです。Iコリント12：3に「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ。」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です。」と言うことはできません。」とあります。つまり、神がその人の心に働いたときに、その人は内側から「イエスは私の神です。イエスは私の主です」とそのように告白すると言うのです。

コリント人への手紙第二4章の箇所は先ほども見ましたが、サタンは救いのすばらしさを一生懸命見せないようにします。でも、神が私たちの内側に働くときにどうなるのでしょうか？4：6「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせて

くださったのです。」、つまり、神が働かれるときに、神がこの真理を私たちに悟らせてくれるのです。ですから、救いは神の恵みなのです。私たちはどうしてもこの神のことを理解できない…、でも、神が働いてくれると理解できるし、神が私たちの心に働いたとき私たちは心から「イエスは私の主です。イエスは私の神です。」と、そのような告白をするのです。これは神のみわざなのです。

ですから、そのことをもう一度頭に入れながら、今日のテキストをもう一度見てください。「人は心に信じて義と認められ、」と、今、私たちが教えられたその真理を心から受け入れて、そして、私たちがイエス・キリストを信じるなら、私たちには「告白」という結果が伴って来るのです。聖霊なる神が、私たちの内側から「イエスさまは私の主です。」という告白をもたらしてくれるのです。ジョン・カルバンはこのようなことを疑問をもって言います。「『我々はただ信仰によってのみ救われる』とパウロは宣べ伝えて来た。それでいながら、ここでなぜ『心に信じて義と認められる、口で告白して救われる』と二つの条件を付けるかのようなことを言うのか？」と。それに対して彼はこのような結論を言います。「パウロは単的に何が真実な信仰であるかについて触れようとしたのである。すなわち、この告白という実りを生じるものが真実の信仰である。」と。

心から「神が私の主です」ということは、先ほどから見ているように、私たちの意志が伴うのです。ですから、私たちは真理を聞いて、私は神でないものを神として来た、主でないものを主として来た、それが間違っていたことを気付いた私たちは真理を知るのです。このイエス・キリストがすべての神であり、主権者であり、統治者であると。この方を受け入れて歩んで行こうとするときに、当然、そこには行動が生まれて来ます。例えば、子どもたちに「勉強しなさい」と言っても、勉強したくない子はどうしますか？ 渋々部屋に行くかも知れません。でも、勉強するでしょうか？ 私たちはしたくないことはなかなかしません。でも、子どもは外に行き遊びたいと思っているとどうですか？ その機会を狙っています。「行って良いよ！」というように跳んで行きます。つまり、私たちの心が伴っているかどうかです。私たちがイエスを心から受け入れたときに何が起こるでしょう？ 私たちはこの方に喜ばれることをして行きたいと願います。この方が教えていること、命じていることを行なっていくと行こうとするのです。神がそのように私たちを生まれ変わらせてくださったからです。

ですから、心が伴っていない告白は虚しいのです。もし、私たちが、あるいは、皆さんの愛するだれか、友人や家族が、いついつ告白したなどということにしがみついているなら、それは止めなければいけません。それが真実であるかどうかということは私たちには分からないからです。でも、その告白が本当であったなら、神がもたらしてくれた告白であったなら、神はその人を変えて行きます。それが救いだからです。だから、ある人たちは「聖書にこのように書いてあるのだから口で告白しなければいけない！」と言います。でも、考えなければいけないことは、では、聖書の他のどこに「口で告白して救われる」と教えられているかどうかです。

パウロはこの9節で8節を受けて、申命記30章から引用している「口と心」を使って「口と心」の話をしたのです。そして、10節で「信仰とはどういうものか」を教えたのです。私たちが心からこの真理を信じて行こうとするなら、そして、神がその人を救ってくれたら、このような結果が伴って来るのです。その人は神のことを語りたくて仕方ないし、この神のすばらしい恵みを人々に伝えようとし、そのような人になって行きます。「私はイエスさまを信じた。イエスさまは私の神です。イエスさまは私の主人だ。私は喜んでこの方に従って行く。」と、そのように告白して、そのように生きて行く者へと私たちは変えられているのです。

ジョン・マレーという神学者はこう言います。「信仰なき告白は無益である。しかし同様に、告白なき信仰は偽物であることが明らかにされるだろう。なぜなら、口による告白は信仰の真実性の証拠である。」と。繰り返します。それは心から出て来るものです。神がもたらしてくれるものです。それが口からなのか心なのか、その人の生き様を見てください。はっきりします。救いは神からの賜物です。神が救ったならその人は変わります。

《結論》

私たちはイスラエルの人々が不信仰であったイエスの「受肉」と「復活」について考えて見なければいけません。

1. イエスの受肉

- ・ いったい、だれが人となったのか？ 人としてお生まれになったこの方はいったいだれなのか？
- ・ 彼は何のために人となったのか？

答え：

私たちは見て来ました。イエスは唯一真の神です。この神が人となってこの世に生まれてくださったのは、あなたを罪から救うためです。あなたが受けなければならない罪のさばきから、生まれながらにあなたを虜にしている罪の束縛から、あなたを責め続けるその罪悪感からも、罪からあなたを救うためにこの神は人となって来てくださったのです。

2. イエスの復活

- ・父なる神はどうしてイエスを死からよみがえらせたのか？
- ・イエス・キリストのよみがえりがどうして私にとって重要なのか？

答え：

もうこの答えは見て来ました。イエスは信じるすべての人の罪を赦し、救うことのできる救い主であることを明らかにするためです。イエスはあなたのすべての罪を赦すことができます。なぜなら、イエス・キリストはもうあなたの罪を負って十字架で死んでくださったからです。そして、よみがえることによって、救い主であることを明らかにしてくださった。このイエス・キリストによってのみ罪の赦しを受けることができます。

これが神が備えてくださった救いです。人間が考え出した救いではありません。神の救いなのです。信じるあなたに赦しを与えてくれます。永遠のいのちを与えてくれます。そして、神だけが与える本当の救いをあなたにもたらしてくれます。

私たちが心から今日お集いの皆さんにお勧めすることは、あなたがこのイエス・キリストを心から信じ受け入れることです。神が備えてくださったこの救いをいただいて生まれ変わってくださることです。それは私たちだけではありません。あなたのために死んでくださった神があなたに望んでおられることです。どうぞ、救いを求めて出て来てください。神はあなたを救ってくださる、今日、救ってくださいます。